

Rotary MAEBASHI WEEKLY REPORT

2018-2019 | インスピレーションになろう *Be the Inspiration*

楽しいロータリークラブを実現しよう

2019. 2. 19(火) 第3124回 例会報告

例会日…火曜日(12:10)～群馬ロイヤルホテル

(第1回 昭和28年9月8日創立)

ホームページ URL <http://www.maebashi-rc.jp/>

電子メールアドレス office@maebashi-rc.gr.jp maebashi@rid2840.jp

会 長…宮崎 瑞穂

幹 事…温井 尚久

クラブ会報委員長…江原 友樹

編 集 者…高橋 善明

点 鐘 宮崎会長

ロータリーソング

「我等の生業」



司 会 伊藤副幹事

ビジター

◎国際ロータリー第2840地区 第1分区ガバナー補佐
中島 博さん

◎前橋国際奨学生 ファン サンヨンさん

感謝状贈呈

平出昌男会員

山田邦子会員



ビジター挨拶

中島ガバナー補佐



会長の時間 宮崎会長

皆さん今日は。

会長報告ですが、先ほどは中島ガバナー補佐には例会に出席いただき地区の状況やIMについてご説明いただき有り難うございました。IMが成果を上げられるように前橋クラブとしても努力したいと思っております。他に今週は特にお伝えしなければならない報告事項はございません。

会長の時間ですが、先日の池江璃花子さんの白血病のニュースは本当に衝撃でした。あれだけ頑張っていたのに、このような事になってしまい気の毒としか言い様がありませんが、幸い本人が前向きで、さすが一流のアスリートは我々のような凡人とは違うと感心しました。なんとか病気を克服して再度活躍されることを祈るばかりです。その後支援の輪が大きく広がります。



髓バンクに登録する人が激増しているというニュースが流れました。白血病の人にとっては有り難いことと思います。これは臓器移植の一種ですが、私も現役時代に臓器移植に直接に関わり、院長になってからもその体制作りにはずいぶん関わりました。それで今日はそのことをお話ししようと思ったら奇しくも昨日の上毛新聞のトップに一昨日県内で6歳以下の子供の脳死判定が行われて、臓器提供が行われたと載っていました。私は脳神経外科医ですから、臓器移植と言っても臓器提供いわゆるドナー側として関わっていました。私の現役時代は1980年に角膜・腎臓移植法ができ臓器移植は角膜や腎臓が主でした。それも生体腎移植が多かったです。その頃外国では脳死移植が始まっており日本でもその可否についての議論が盛んだったころですが、なかなか反対も多く、脳外科医仲間でも自分が一生懸命治療した方が亡くなっても、とても移植を推進する気になれないという意見が少なからずありました。又日本で最初に心臓移植をしたのは札幌医大の和田教授でしたがその結果脳死や移植に対する強い不信感が生まれ、日本の移植医療は遅々として進みませんでした。死体腎移植では腎臓は心臓が止まる直前に腎臓の動脈にカテーテルを入れて心臓停止を確認し死亡となったらすぐに灌流液を流すことで腎摘出ができ多少の保存が利きます。その後他の病院に運び移植をしてもらいました。私が印象的だったのは子供さんが亡くなったときに親御さんから腎臓を移植してほしいと申し出があったときです。親御さんの気持ちとしては一部の臓器だけでも生きてほしい気持ちも有り、世の中の役に立ったと言う証がほしいという気持ちのようです。それから臓器提供の話をするのは患者さんを傷つけることではなく、救いになることもあると勉強しました。1983年には免疫抑制剤シクロスポリンがアメリカで発売され大きく移植医療は進歩しましたが、日本では脳死移植の議論がなかなか進まず先日亡くなった哲学者の梅原猛も有名な反対論者でした。これは主に社会的、哲学的な意味からの反対です。又余り突き詰めて理性的に考えないと多くの人の意見に流されるという日本人のメンタリティも脳死を認める事の遅れに影響しているのでしょうか。しかし1997年にやっと議員立法で脳死下の臓器移植法が成立してから脳死下の移植が始まりました。この法律で臓器移植に絡んだときに限り脳死が死であると定義されました。手続きも非常に厳格に決まっており、本人の意思が文書ドナーカードで確認でき、家族の承諾があるときに

限られました。その結果提供は15歳以上に限られ、全体には殆ど増えませんでした。この時にはむしろ死体腎移植も脳死下とおなじく文書による意思表示が必要のように誤解されたのだと思いますが結果的には大きく減ることになりました。

その後2010年に脳死臓器移植法が改正され、本人の同意が無くても家族の同意で可能となりました。これで15歳以下の脳死下の移植も可能となったわけです。そしてここから移植は少し増えました。それでも日本の移植は諸外国に比べ圧倒的に少なく、アメリカの大体100分の1くらいです。ヨーロッパもやや少ないのですが日本の50倍位あります。それで日本人は外国に出かけて移植を受ける人が増え、日本は臓器をお金で買うと問題になり2010年、WHOは移植の臓器は極力国内で確保するようという意見を採択しました。それで渡航の件数も減りましたが、その費用はうなぎ登りとなり、かつては小児心臓の移植は1億円くらいでしたが今や2億円にまで上がっているということです。

実際の現場では主治医側から臓器提供を持ちかけることはしません。臨床的にほぼ脳死と判断されて、死が十分受容できる状態になったら臓器提供という方法があることを伝えるだけです。ただ手帳を持っているかどうかは入院時などで確認します。それで興味があれば院内にいる移植コーディネーターに実際の話聞いてみるか訊きます。

ここで伝えたいことは、まだまだ脳死が十分に理解されておらず医師でも間違っている人がたまにいます。いわゆる植物状態と呼びかけなどに反応せず、外からは知的な活動が全く感じられない人を脳死と言う人がいますが、これは全くの間違いです。脳死のレベルにもいくつかあって、大脳死では知的な反応の停止はあっても、脳幹が生きており、人工呼吸器を使えば呼吸や消化などの機能は残っています。これに対し脳幹死では呼吸中枢が傷害されています。そしていわゆる脳死はすべての機能が不可逆的に停止した状態です。この時点で病理解剖をすると通常は形をとっているのに、脳は軟化し形が崩れてしまいます。脳死の最も確実な判定は脳の血流が途絶えていることを証明すればよいのですが、この検査は少し大変なので、本人にメリットの少ない検査なのであまり行われません。脳が死ぬと内部の構造も壊れてしまい、CTでも写りますのでそのような画像診断や脳波—脳は生きていれば微細な電気信号を出していますが、死ぬと出ません—などで判定します。

脳死の判定は時間を空けて具体的には6時間少なくとも2回確認することになっています。小児ではさらに厳格に定められ、24時間後に再判定することになっています。

そして移植の意思が確認できると日本移植ネットワークに連絡し、それでコーディネーターや臓器を移植する病院が厳密に選定されそこから摘出チームが集まります。それで臓器の機能を調べ可能となると順次取り出してそれぞれの施設に飛行機などをうい臓器を移して迅速に移植が開始されます。

現在まで群馬県では14例の脳死下での臓器提供が行われ、半分が日赤、残りの半分が太田記念病院、後は高崎総合医療センター、群馬大学が各1例です。一昨日にあったのは6歳以下の臓器提供で群馬県では最

初の事例となったわけですが。移植には今でも厳しい意見も有りますが少なくともその臓器が良くなれば長生きが出来る事を考えるとこれを止めることは難しいでしょう。このところ臓器提供に対する考え方はかなり変わってきて、内閣府の最近の調査では提供の意思がある人は約40%、どちらかと言えばしたい人が30%以上と、4人に3人はその意識があります。若い人に限ると2007年には約60%が提供したい、どちらかと言えばしたいと応えていたのに対し、2017年はこれが90%に上がっています。それでも実際にはなかなか提供に至らず、移植を待ちながら亡くなっている人も少なくありません。骨髄バンク登録の普及で臓器移植に対する考え方も徐々に変わるかもしれません。

幹事報告 温井幹事

1、次回、2月26日の例会は夜間例会です。講師に料理研究家の村山瑛子さんをお迎えし、食にまつわる講演及び実演・試食を行います。会場はロイヤルチェスター前橋、点鐘は18:30です。

本日が締め切りとなっています。ご家族も参加できますので多数の方々参加をお願いします。

副幹事報告 伊藤副幹事

前橋北RC、前橋南RC、前橋東RC、伊勢崎南RC、安中RC、桐生西RC

出席報告 田部井会員

会員数：122名

出席者 78名

欠席者 44名

本日出席率：67.83%

前々回訂正：78.63%

ニコニコBOX報告 内藤会員

■望月 和子…お誕生祝い

のお花をありがとうございました。一足早い春を楽しんでいます。又11年目の皆勤賞ありがとうございました。

■鴻田 敦…本日委員長卓話

させていただきます。久しぶりの登壇に緊張しています。

■中島 博(第2840地区 第1分区ガバナー補佐)

■藤野 隆司…先週の土曜日の上毛新聞の記事をボックスに入れました。昨年2月にメジャーシンガーになったRIRIこと荒井梨里(りり)さんが現在、セカンドアルバム「NEO」(ネオ)を出し、全国縦断コンサートを行っています。明日、20日7時より、高崎のクラブフリーズにて、凱旋ライブを行います。群馬から世界に羽ばたくアーティストを目指すRIRIを今後とも応援宜しくお願い致します。

委員長卓話

前橋国際奨学会委員会

鴻田委員長



※クラブ会報は会員の敬称は略させていただきます